千代田区議会議員
内田直之
区政報告
ふぉわーど

From this time
FORWARD

vol. 22
2020.11

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです。

Think
Sense
Study
Action

uchida naoyuki .com

自民党

ボランティア・学生インターンを募集しています!
政策に共感して頂けるボランティア・学生インターンを募集しています。ご都合の良いお時間だけで結構です。
メールやお電話で、お気軽にお問い合わせ下さい!

Think

スポーツで地域をつなぐⅢ

スポーツと体育は何が違うの?

私たちは新型コロナウイルスの感染拡大によって、外出自粛などの日常生活が制限され、ライフスタイルや価値観の大きな変化に直面しました。一方、不要不急と言われた文化芸術やスポーツ活動の行動制限は少しずつ緩和されて来ましたが、芸術や音楽、そしてスポーツを楽しむことの大切さを改めて認識することが出来ました。

スポーツの語源はラテン語のdeporatareであり、日常生活の労働から離れた、遊びの時間、余暇といった意味だそうです。明治初期、東京大学に赴任した英国のストレンジ教授が著書の中で、陸上や水泳、フットボール、野球、テニスなどをスポーツと称して紹介し、日本語では「遊戯」と翻訳されました。一方、それらスポーツ（特に陸上・体操・水泳）が、兵隊の訓練や男子学生の心身鍛練として活用されるようになると「遊戯」では不適当という事で「運動」とか「体育」という言葉が用いられ、我々日本人の間に「スポーツ＝体育」が定着し現在に至りました。運動の実践を通して行われる教育の一環である「体育」と余暇や遊戯である「スポーツ」は、本来別物だったのです。

スポーツを通じた地域コミュニティ

スポーツは人生をより豊かにし、身体的・精神的な欲求を満たす、誰もが楽しめる世界共通の文化です。子どもにとっては、体力の向上や責任感、規律、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。また、成人・高齢者にとっても、健康の保持増進や体力の向上、ストレス発散、そして生活習慣病の予防、生きがいとして貢献しています。

コロナと共生した社会において、スポーツの社会的意義はますます大きくなると思われます。なかでも、特に注目しているのは、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化です。人口減少や人口流動、価値観の多様化といった社会的変化に伴う地域コミュニティの衰退は、大きな社会問題となっています。スポーツを通じて人々が交流を深めていく事は、地域における連帯感や活力の醸成に大きく貢献できると思います。住民相互の新たな出会いや共通の目標達成に向けた努力により、地域に誇りや愛着を感じることができるでしょう。スポーツは社会的地位や年代から解放され、純粋な交流を育むこともできるのです。

千代田区の課題とスポーツ政策

千代田区世論調査では、整備・充実すべき施設として「スポーツ施設」が毎年上位にランクされています。都心に位置する千代田区には、日常的にスポーツを行う環境が充分でないことは明らかです。一方で千代田区には、計48,000㎡という東京ドームより広い区有地が有効に活用されておらず、外濠公園総合グランドは整備方針が決定して何年も経つのに未だ着工しない等々、区の対応はお粗末な限りです。

私は、コロナと共生した時代において、生活に密着したスポーツが更に普及し、文化としてのスポーツが確立されていくと確信しています。簡単ではありませんが、これからも未来を担う子どもから高齢者までがスポーツに親しめる環境づくりに、取り組んで参ります。

内田直之が推進するスポーツ政策

1.「ちよだスポーツパーク」構想
都心から便の良い場所での千代田区専用スポーツパーク構想を提案して参ります。野球、サッカー、バスケ、テニス等々、世代を超えた多様なスポーツ環境の充実を図ります。

2.区立スポーツセンターの整備
開設から40年以上が経過し施設の老朽化が顕著です。区民の皆様が気軽にスポーツを楽しめるような総合施設が必要であり、最も現実的な現地での建替えを推進します。

3.外濠公園総合グランドの整備
区内唯一の屋外施設である外濠公園総合グランドは、コンディション不良や養生により、年間150日間も利用できない状況です。人工芝化により利用日数を160%拡大できます。

4.児童遊園をスポーツ公園へ（5か所）
以前は喫煙場となっていた児童遊園を、キャッチボールやバスケ、介護予防・健康向上などの機能を有する、身近なスポーツ公園への再構築を推進します。

5.千代田をホームタウンとしたプロチームを支援
プロサッカーチームや3人制バスケチームを誘致・支援し、経済的な効果のみならず、地域のアイデンティティの形成や、地域の活性化、まちづくりに貢献します。

Study

新型コロナ対策に対する補正予算

新型コロナウイルスの感染状況は減少傾向にはあるものの収束の見通しは立たず、日常生活においては手洗いやマスクの着用、三密の回避などの対策が求められています。千代田区議会ではこれまで、４回にわたり補正予算について審議を行って参りました。第３回定例会では補正予算第4号を新たに可決致しました。

【補正予算第4号】　1億1944万円
①介護施設PCR検査
②インフルエンザ予防接種の拡充
③全庁LANの運営
【補正予算第3号】　86億861万円
①千代田区特別支援給付金（12万円/人）
②商工融資事業・商工関係団体等支援事業
【補正予算第2号】　26億5209万円
①GIGAスクール構想支援
②保育所運営補助・介護施設等助成・中小企業等経営支援など
【補正予算第1号】　69億9130万円
①子育て世帯への臨時特別給付金
②特別定額給付金（10万円/人）

Action

改装された日本武道館を視察

東京オリパラに向けた増築・改修工事が終えたとのことで、区議会にて視察を行いました。

日本武道館は1964年東京オリンピックの柔道競技会場として建設され、法隆寺夢殿をモデルにした八角形の意匠や金色の擬宝珠、緑青色の屋根は、まさに千代田区のシンボルとも言えます。

総工費120億円をかけた改修では、大屋根の葺き替え、壁や天井の耐震化、バリアフリー機能の充実、照明全てのLED化などが施されています。特に女性用トイレの増設や男子用から女子用へ簡単に変更できる工夫など、利用者に優しい配慮がなされていました。また、石井幹子氏によるライトアップデザインは、東京の夜景の新たな名所になりそうで楽しみです。

九段下駅の地下鉄発車メロディにもなっている「大きな玉ねぎの下で」千代田の子ども達も大きく育って欲しいと想いました。

Study

世界の街歩き

ヤンゴン（ミャンマー連邦共和国）

人口　516万人
面積　599㎢
連邦共和制

ミャンマーはインドシナ半島の西側に位置する共和国であり、以前はビルマと呼ばれていました。第二次世界大戦のビルマを舞台にした映画「ビルマの竪琴」を観た方も多いと思います。最後に主人公が奏でる「仰げば尊し」に涙したことを覚えています。そのミャンマー最大の都市がヤンゴン（旧名はラングーン）です。

東南アジアでも特に貧困率が高いと言われ、都心を少し離れると衛生環境が悪そうな貧困地域を見かけました。近年は経済成長が著しいと言われていましたが、このコロナショックで貧困が拡大しているとの報道もあり心配しています。

ヤンゴン市内では、多くの車やタクシー、路線バス、そして鉄道までもが日本の中古で、日本語表記をそのまま使用されているなど、日本との強い結びつきを感じました。ミャンマーの世論調査では、最も信頼できる国として日本が挙げられています。実際、2020年のヤンゴン滞在中では、ぼられる事もなく、出会う人々は皆親切で、本当に気持ちよく滞在することが出来ました。

一方、ヤンゴン中心部にある中央駅前では、約39,000㎡にも及ぶ大規模再開発が進んでいました。三菱商事や三菱地所等を含む現地プロジェクト会社によるもので、分譲住宅、オフィス、ホテル、商業施設が建設されるそうです。このプロジェクトは2021年に竣工を予定しており、丸の内界隈に分譲住宅を加えた街並みをイメージしているとの事でした。大丸有地区における街づくりの参考になりそうなので、完成したら再訪したいと思います。

Action

「都市計画マスタープラン」「低未利用区有施設の有効活用」について、一般質問を行いました。

1. コロナと共生した都市マスタープランへ

【問題の背景】都市計画マスタープランは、都市計画法に基づき区が定める基本的な方針であり、まちづくりの将来ビジョンを示し、あるべき市街地像や課題に応じた整備方針、地域の生活、経済活動を支える土地利用の在り方や施設整備の方向性について総合的に定めるものです。平成10年に策定されたマスタープランは、特に定住人口の回復を主点にまちづくりに取り組んできました。今回の改定では、これまでのまちづくりの成果・課題を踏まえつつ、江戸を起点とする千代田の魅力・価値と可能性を改めて見直し、人口動向や首都直下地震等の大規模災害リスクなど、多様な環境変化に対応するため、まちづくりのたゆまぬ進化を目指すものと認識しています。

【質問】

新型コロナウイルスの感染拡大により、社会の在り方は大きく変わりました。コロナと共生したまちづくりへの転換が必要です。ニューノーマルが求められ、新たに配慮すべき課題が顕在化した中で、改定中の都市計画マスタープランは見直すべきでは。

【区（執行機関）の答弁】

新型コロナ感染症の蔓延は、人の生命・健康を脅かし、人々の意識や行動様式のみならず、経済・社会の在り方など多方面にその影響を及ぼしており、その収束後においても、家庭やオフィス、商業施設や公共交通機関など、都市活動の様々な場面で、議員指摘の通りいわゆる「ニューノーマル」への移行が求められる。都市計画マスタープラン改定の検討については、都市計画審議会を中心に議論してきた。しかし、ご指摘通り、新型コロナ危機を契機に改めてウィズコロナ、アフターコロナの都心のまちづくりに向けて必要な検討を行って行く。既に、様々な分野の有識者に追加ヒアリングを始めたところである。東京都や国においても都市機能の集積など、広域的な観点を中心に議論がなされており、これらも参考に検討を進めて行く。

2. 地区計画の見直しと合意形成

【問題の背景】区はこれまで、マスタープランを具現化するため、地区計画制度を活用して、地区の課題を共有し、地区の将来像、まちづくりの方向性とルールを定め、地域特性に応じたまちづくりを推進してきました。これまでの防災対策、環境配慮、ユニバーサルデザインに加え、感染症対策やデジタル化への取組も急務であり、こうしたニーズを踏まえ都市計画マスタープランは改定されるのですから、当然、この方針を具現化する地区計画にも必要に応じた見直しが求められます。また、地区計画は、多様な主体がまちづくりの方向性を共有することから、その実現に向けた取組が始まるのであれば、最も重要となるのは、計画の策定段階における合意形成です。一方、それぞれの地域には多様な意見があり、合意形成は極めて困難なケースもありそうです。

【質問】

千代田区におけるまちづくりの最上位計画である都市計画マスタープランが改定された場合、地区計画の見直しも必要となります。地区計画の策定や方向性をどのように示されるのでしょうか。その際、地域における合意形成も大変重要となります。

【区（執行機関）の答弁】

都市は固定的なものではなく、社会経済の変化の中で動いている。長期的な視点は必要だが、目指すべき都市像や都市の課題、求められる都市機能などが変化すれば、地区計画などの都市計画も変更すべきである。千代田区はマスタープランを具現化する手法として、地区計画を活用し、地域のまちづくりに取り組んできた。マスタープランの改定を踏まえ、地区計画の見直し方針の明確化について検討をして行く。一方、地区計画は土地や建物の規制が強化されることから、権利者へ大きな制約がかかるため区では、都市計画手続に入る前の意見交換を丁寧に行ってきた。マスタープランの改定後は、改定内容を具現化するため地域特性を踏まえた地区計画見直し等の方針を明確化し、変更や決定に向けた合意に取り組んで行く。

3. 低未利用区有施設の有効活用に向けた議論

【問題の背景】令和2年8月現在、区の低未利用施設は15施設であり、小川広場など更地となっている施設が6か所、建物が残されている施設が9か所となっています。敷地面積は合計4万7819平米にも及び、東京ドームよりも大きな面積となっています。地価公示価格から試算すると、区内の敷地だけで、なんと1500億円にも及びます。実勢価格はそれ以上であり、区民サービスにおいて莫大な機会損失を招いていることとなります。更に維持管理費として、令和2年度予算では約1億550万円、有効に活用されている旧九段中学校や旧練成中学校を除いても、約5800万円もの無駄な財源が費やされています。

【質問】

都心に位置し多様な機能が高度に集積した地域にもかかわらず、千代田区では低未利用施設が長年放置されています。有効活用に向けた議論が区に求められているとの御答弁から、約8か月が経過しました。その際、庁内でどのような議論がなされたのでしょうか。

【区（執行機関）の答弁】

施設の有効活用に向けた議論を進めるためには、既存施設の建て替えや大規模改修を控えている施設の状況を踏まえつつ、低未利用地の利活用も含めた整理が必要だと考えている。現在、中長期的・全庁的な観点から、区有地等の活用方針を検討する区有地等活用検討会において、こうした整理を含めた公共施設整備の方針の議論を進めている。今後、検討内容を適宜議会にお示しし、ご意見を伺いながら方針の策定を進めて行く。

4. 新型コロナ対策の一環とした有効活用のご提案

【問題の背景】国立成育医療センターが子供・保護者約6700名を対象に行った調査では、子供たちの72%に、何らかのストレス反応・症状が見られたと報告しています。区内のあるスポーツクラブの例をご紹介いたします。小学生クラスでは、コロナショック前までは全ての学年が1か所で練習を行っていましたが、コロナ禍では密な状況を避けるために、学年ごとや2学年ごとに分かれて練習を行っています。それだけでも、3倍から6倍の空間や時間が必要となります。一方、地域のスポーツクラブでは、コロナショック前の活動場所すら確保できず、子供たちの参加機会の削減や時間の短縮によって対応せざるを得ない状況が続いています。有効利用されている低未利用施設もありますが、利用できる空間や時間は数多く残っていそうです。関係部署協働で至急議論して頂きたいと思います。

【質問】

千代田区にある低未利用区有施設には多くの可能性があります。方向性が決まるまで、コロナ感染症対策とした暫定利用と明確に位置づけ、子供たちのスポーツや遊びの場としての有効活用を提案いたします。

【区（執行機関）の答弁】

都心の貴重な空間はわずかな時間であっても無駄にはできないとのご指摘にもあるとおり、区内いずれの低未利用地も現状は何らかの暫定利用をしており、一定の活用が図られていると認識している。一方で、利用できる空間や時間がないか、子供たちのスポーツや遊びの場として有効活用できないかということについては、ご指摘いただいた様に、そうした事業や財産を所管する関係部署が協働で議論して、縦割り110番の対象とならないように、しっかりと取り組んで行く。

Sense

千代田コラム

赤坂プリンスクラシックハウス（旧李王家邸）

東京ガーデンテラス紀尾井町にある赤坂プリンスクラシックハウスは、明治43年（1910年）の日韓併合により皇族となった朝鮮最後の王家である李垠（イ・ウン）殿下の為に建設されました。設計は権藤要吉、施工は清水組（清水建設）による木造2階建てのチューダー様式の洋館です。権藤要吉は白金台にある旧浅香邸の設計でも有名です。

オフィスやホテル、商業施設、分譲住宅で構成される大型複合施の再開発に伴い、移設・改修されたクラシックハウスは、現在もフランス料理店やバーとして利用されています。内装、外観ともに良く保存されており、特に室内の照明は当時のもので見応えのある意匠です。

歴史的建築物の保存・活用は、再開発における重要課題だと思います。「機能更新」と「歴史文化資産」の共存は簡単ではありませんが、まちづくりや再開発において、地域の歴史や文化を如何に次世代に伝えられるかを、今後とも模索して行きたいと考えています。

Action

突然の議会解散と撤回について

「新型コロナ感染症対策に伴う補正予算」について石川区長により臨時議会が招集されました。86億円もの補正予算の提案理由の説明は不十分なものでした。私の「緊急質問」に続き、100条委員会での偽証・証言拒否に対する告発を求める議決が可決されました。翌日、補正予算を審議する特別委員会の最中、突然、区長は議会に「解散通知」を提出されました。前代未聞の暴挙であり、その混乱は多くの報道機関で報じられました。

区議会は「解散は法的根拠がなく無効」と主張しましたが、区長は「総務省が何と言おうと私が判断する」「議会は存在しない」と審議を拒み続けました。その後、東京地裁は「解散処分の執行停止」を認め、区長はやむなく「解散通知の取消し」を通知し議会は再開されました。しかし、石川区長による「法を無視した勝手な見解による議会の解散」により、千代田区の信頼は地に落ち、区政の停滞を招いた責任は計り知れません。区長はどう責任を取られるのか？その動向を注視したいと思います。

――詳細はuchidanaoyuki.comの「混乱続く千代田区現場レポート」をご覧ください――

街づくりへ、プロの視点。

内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社（現LIXIL）入社。総合企画室主任、海外赴任を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社（現LIXIL）25年間勤務

●所属団体

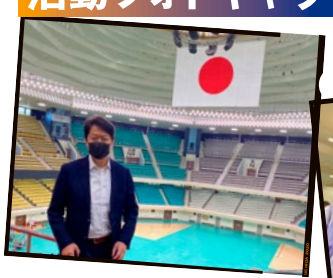
一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学 都市施策・危機管理研究所 客員研究員
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
一般社団法人 東京建築士会

●内田直之事務所

〒101-0041 千代田区神田須田町1-30-1-103
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp

Action

活動フォトギャラリー



▲日本武道館(改装)視察

▼池坊保子先生(華道家)

▼臨時議会での緊急質問

▲ふれあい親善ゲートボール大会

▲都議会議員補欠選挙応援